

今週（1月15日から1月19日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が概ね360兆円台後半での推移となった。無担保コールO/N加重平均レートは積み最終日にあたる15日こそ▲0.029%と高い水準となったものの、新積み期間入り後は低下し、16～18日までは▲0.042%となった。週末の19日は取り上がる先が一部見られたものの、概ね横ばい圏の出合いとなった。業態別では、15日が地銀業態で▲0.040～▲0.020%、証券業態で▲0.030～▲0.025%、信託業態で▲0.040%、メガバンクで▲0.050%の水準での調達为中心となった。新しい積み期間に入ってから、地銀業態で▲0.060～▲0.035%、証券業態で▲0.055～▲0.040%、信託、メガバンクで▲0.065～▲0.060%程度と、バラつきはあるものの全体的に低下した。ターム物は週初こそ1W～1Mで▲0.040%程度の出合いが見られたが、新積み期間入り後は出し手の運用ニーズが乏しく、▲0.030%台の出合いと小幅上昇となった。また、証券業態の調達で1W～1Mで0%程度の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは18日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,421億円の落札（期落ち額2,220億円）で未達となった。

●レポ市場

今週のT/N、S/NのGC取引は、週初は積みの初旬でレート水準を探る展開の中、一時は▲0.12%近辺までレートが低下した。16日以降は投資家を中心に資金調達がしっかり入るようになり、▲0.09～▲0.07%程度で淡々とした取引が続いた。18日のS/Nは短国の発行が2本重なったものの、レートの上昇は限定的だった。GCターム物は、概ね足元レートを反映したレート水準で、1W～2Wで▲0.09～▲0.07%程度、1Mで▲0.10～▲0.08%程度だった。3月末を越える3ヶ月物は、▲0.12～▲0.11%程度の気配だった。

SC取引は甘めの銘柄で概ね▲0.11～▲0.09%程度の取引が中心だった。個別銘柄では、10年336、341、348、5年127、130、131、20年163などに引合いが目立った。リオープン発行となった5年134、30年57は、入札前に▲0.20～▲0.15%程度で取引されたが、発行後は緩んだ。

●短国市場

今週の短国市場は、先週実施された2回の短国買入オペで需給環境が改善されたのか、全般的に強含みの展開となった。

17日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.145%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1401%、按分落札利回▲0.1371%と堅調な結果となり、セカンダリーでも▲0.15～▲0.145%の出合いと強含みで推移した。18日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.163～▲0.158%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1559%、按分落札利回▲0.1443%と強い結果となった。セカンダリーでは▲0.15%で出合い、底堅く推移した。

19日に実施された短国買入オペは、事前予想通りの12,500億円でオファーされた。前回から5,000億円の減額となったものの、堅調なマーケットを反映してか平均落札利回較差+0.001%、按分落札利回較差▲0.003%と小じっかりとした結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額2,500億円弱に対して、総額4,500億円強の発行が見られた。一部の卸売・食料品・化学等の業態において大型発行が見られ、市場残高は順調に積み上がっているものの、年明けによる再開発行が一服したため、やや盛り上がり欠けるマーケットとなった。発行レートについては期越えの銘柄では強めの入札が見られたものの、今月・来月の日銀買入オペの予定額が2,000億円と少ないことから、全般的に業者の買いニーズは弱く、0%近辺での決着が多くを占めた。

17日のCP等買入オペは、当日に事前予定よりも500億円増額され、2,500億円でのオファーとなった。オファー額が増額となったことで、足切レートが若干低下することも期待されたものの、入札結果は平均落札レート0.000%・按分レート0.000%と、前回（平均0.004%・按分0.000%）比で平均レートが低下するにとどまった。応札総額が9,257億円と多かったことと、応札可能銘柄が限定されていたことから、期近物の在庫処分ニーズが結果に反映されたと考えられる。

●短期金融市場関連指標

| | 日経平均 (円) | 新発10年物 国債利回り (%) | 為替 (ドル/円中心相場) | 無担保コールO/N (加重平均・%) | 東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%) | 日銀当座預金残高 (億円) |
|----------|-----------|---------------------|------------------|-----------------------|----------------------------|------------------|
| 1/15 (月) | 23,714.88 | 0.070 | 110.70 | △ 0.029 | △ 0.106 | 3,651,000 |
| 1/16 (火) | 23,951.81 | 0.075 | 110.75 | △ 0.042 | △ 0.090 | 3,674,300 |
| 1/17 (水) | 23,868.34 | 0.080 | 110.32 | △ 0.042 | △ 0.083 | 3,686,500 |
| 1/18 (木) | 23,763.37 | 0.075 | 111.35 | △ 0.042 | △ 0.081 | 3,663,100 |
| 1/19 (金) | 23,808.06 | 0.075 | 111.05 | △ 0.041 | △ 0.076 | 3,670,100 |

来週（1月22日から1月26日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

| | 国内主要経済指標 | 国債等入札予定 | | | 海外主要経済指標 |
|----------|--|----------------------------|---------------------------|--|--|
| 1/22 (月) | 日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) | 流動性供給 5,500億円 1/24発行 | | | |
| 1/23 (火) | 日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 | | | | |
| 1/24 (水) | 12月の貿易統計(財務省 8:50) 11月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00) | 交付税借入 10,500億円 2/1借入 | | | 12月の米中古住宅販売 |
| 1/25 (木) | | TB3M 44,000億円 1/29発行 | 20Y 10,000億円 1/29発行 | | ECB定例理事会(金融政策発表) 12月の米新築一戸建て販売件数 |
| 1/26 (金) | 金融政策決定会合議事要旨(12月20,21日分 8:50) 1月都区部・12月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 12月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) | | | | 10-12月期の米GDP速報値 12月の米耐久財新規受注 10-12月期の英GDP速報値 |

●資金需給予想

| 単位：億円 | 銀行券要因 | 財政等要因 | 資金過不足 | オペ種類 | 期日分 | 新規実行分 | オペ合計 | 実質過不足 | 需給要因 |
|----------|--------|---------|---------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------|--------|--------|--|
| 1/22 (月) | 1,200 | ▲12,800 | ▲11,600 | 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完 | ▲2,200 ▲100 700 300 | 1,400 2,500 700 | 2,600 | ▲9,000 | TB3M発行▲44000償還41600 TB1Y発行▲23000償還4400 30Y発行▲8000 変動15Y償還4000 エネルギー対策借入▲5500期日5000 |
| 1/23 (火) | 0 | 2,000 | 2,000 | 国債買入 短国買入 | | 6,800 12,500 | 19,300 | 21,300 | |
| 1/24 (水) | 0 | 1,000 | 1,000 | | | | 0 | 1,000 | 交付税借入▲10500期日10500 |
| 1/25 (木) | ▲1,000 | 5,000 | 4,000 | | | | 0 | 4,000 | |
| 1/26 (金) | ▲1,000 | ▲5,000 | ▲6,000 | 社債買入 | | 1,300 | 1,300 | ▲4,700 | 流動性供給▲5500 交付税借入▲10500期日10500 |
| 週間合計 | ▲800 | ▲9,800 | ▲10,600 | — | ▲2,000 | 25,200 | 23,200 | 12,600 | |

1/22は日銀予想、1/23以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、22日がTB3M・TB1Y発行超過、30Y発行で大幅な資金不足日となる。無担保コールO/Nは積み期間前半ということもあり、▲0.06～▲0.03%の出合いと、今週とほぼ横ばいで推移すると見られる。

レポ市場は、概ねレート横ばい圏での取引が続くものと予想されるが、短国の需給要因等によっては、レートが上下する可能性も考えられる。

短国市場は、25日に3M物の入札が実施予定となっている。短国買入オペ後も引き続き堅調な地合いが継続するか、が注目される。

CP市場は、CP等買入オペが26日に実施予定となっている。発行残高が高水準である一方で、オファー予定額が2,000億円と少なく、引き続き横ばいの結果が見込まれる。

主要なイベントとしては、国内では22～23日の金融政策決定会合、経済物価情勢の展望、26日に金融政策決定会合議事要旨、12月の全国CPI、海外では25日にECB定例理事会、26日に10～12月期の米GDP速報値、10～12月期の英GDP速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。